

『なぜ泣いているのか？』 ヨハネの福音書 20章1～18節 2015.4.5(日・イースター)

『マグダラのマリヤは、行って、「私は主にお目にかかりました」と言い、また、主が彼女にこれらのことを話されたらと弟子たちに告げた。』 ヨハネ 20:18

今春、スーパーの食品売場に「イースターパーティー」の大規模コーナーがあり驚いた。キリストの復活を喜び祝う日だと伝えるクリスチャンの出番到来！

◆約二千年前の復活の朝、弟子たちも、墓参に来た婦人たちも復活を信じなかった。イエス様が、十字架と復活について何度も予告し、その意味を教えたのに…。彼らは空っぽの墓を見て啞然とし、マリヤもただ泣くだけ…。人は、感情に流されるとき、この世の悲しみや悔しさばかりを見て、大切なものが見えなくなる(見失う)！マリヤは、目の前の復活したイエス様がわからず、ただ「遺体」を捜し、空っぽの墓を見て泣くばかりだった。主はそのマリヤの名を呼んでくださった！今も生きておられる復活の主こそ私たちの本当の希望である。ナインの息子が生き返り(ルカ7章)、ヤイロの娘(ルカ8章)も、ラザロ(ヨハネ 11 章)も生き返ったが、それは「復活」ではない！(彼らはまた、やがて亡くなった)。イエス様だけが、二度と死ぬことのない命に復活し、死とその呪い、人の悲しみと絶望を完全に滅ぼされた。

◆イエス様はマリヤに『わたしにすがりついてはいけない(17 節)』と言われた。①それは第一に、「目に見える」イエス様にしがみつき、肉的に感情的に、神が「いる・いない」を感じたり、判断したりするのではなく、信仰によってイエス様と結ばれ、『キリストが私のうちに生きておられる(ガラテヤ 2:20)』と確信する、「心強く、安心の信仰」を教えるためだった。②第二にイエス様は、いつまでも抱きついていないで、マリヤが、すぐに、この素晴らしい知らせを伝えるために出かけて欲しかった。「以前、約束されていたことが、今朝、本当に起きた！」と告げるために。イエス様は復活の知らせを『わたしの弟子たちに(17 節)』と告げた(「わたしの弟子たちに」でも、「わたしのしもべたちに」でもなく！)。神は、御子の贖い(十字架と復活)を自分の救いとして受け入れ、信じた者と共に住み、神の家族、神の子として、共に歩む人生の勝利と希望を約束された。

あなたは、死の悲しみと恐れから解放してくださるイエス様を信じたでしょうか？死に代えて永遠の命を与え、天国の約束と確信、安心と希望をくださるお方を、「今」信じているだろうか？